

行政調査報告書「建設常任委員会」

平成 22 年 7 月 21 日(水)～23 日(金)

■秋田県秋田市『秋田駅周辺の整備（アルヴェ、ぼぼろード等）について』



「アルヴェ」は、秋田駅東西が一体となった街づくりを実現するために、市民の交流空間と魅力ある都市機能を市と民間事業者との連携により整備した複合ビルである。5 階建ての公共棟、14 階建ての民間高層棟、3 階建ての民間低層棟及び 3 階建ての駐車棟で構成される。施設は駅と通路で結ばれていて、かなり集客力がありそうであった。また、このような施設

に子ども未来センターのような子どもを自由に遊ばせることのできる施設が併設されていることで更なる集客力を付けており、参考となった。

「ぼぼろード」は、橋上駅方式の秋田駅東西連絡自由通路である。全天候型の歩行者空間であり、幅が広く、イベントが頻繁に行われている。また、「ぼぼろード」と「アルヴェ」は一体的に管理されており、広告宣伝費が年に 1,000 万円ほどあがっている。線路を跨いだ地域の交流には「ぼぼろード」のような、通路と思わせない広い空間で地域をつなぐことで、鉄道が地域を分断することなく、交流の拠点になると感じた。

■秋田県横手市『横手駅東口再開発事業について』

この事業の目的は、空きビルや空き店舗など中心市街地の空洞化対策と、鉄道バスの交通結節点としての都市機能の更新、また総合病院の郊外移転に伴う跡地対策、老朽化木造家屋の更新を一体的対策として街の再整備を実現し中心市街地の活用を図るものである。



これまで再開発といえば、規模を大きくして、余った権利を売却する事により費用を捻出してきたが、横手市では規模を小さくする事による事業費の縮小に努めた。そのため、縮小分の補償を行わず、また、土地を売却して他の場所へ転出する人からも分担金を支払っていただいた。行政の強い指導力が発揮され、短期間で事業が完成される事に大変驚かされた。

■茨城県石岡市『都市・地域総合交通戦略策定、デマンド交通について』



鉄道跡地を市道としてバス専用道化し、定時性と速達性のあるバスを運行する全国初の公設民営によるバス高速輸送システム（BRT 事業）を平成 22 年 8 月から開始した。交差点が電車と違って、相手方のほうが優先となる点など課題が多く見受けられた。

デマンド交通については、合併を背景に平成 18 年 10 月から導入した。デマンド交通システムはオペレーションシステムが必要で、経費が多くかかる。安城市のあんくるバスの乗り入れしていない箇所へのデマンド交通システム化を考えたが、石岡市の方式では安城市には向かないように感じた。交通網の整備には、他の手段を考えなければならない。